

1年生 〈算数科〉

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・計算は、答えが10までの既習のたし算、ひき算を間違えずにできる児童が多い。しかし、まだ計算に慣れず、誤答する児童も数名いる。また、計算カード練習では、計算速度に個人差がある。
- ・単位などの問題文の特定の言葉に気付かなかったり、きちんと読まなかったりして、たし算かひき算か混同してしまう児童がいる。
- ・たし算・ひき算の計算の仕方は身に付いている。一方で「○と○で○になる」「○は○と○」といった数の合成・分解については理解度に個人差が見られる。また、繰り上がり・繰り下がりに必要な10の合成・分解もスラスラ言える児童とそうでない児童といったように個人差がある。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読み取り、具体的に場面をイメージして立式することが難しい児童が数名いる。言葉だけでは、式の意味を十分に理解できないので、個別に支援する手立てが必要である。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・たし算やひき算が好きで、計算カードの練習に進んで取り組む児童が多い。
- ・教科書や計算スキルの問題を意欲的に取り組み、関心を示す児童が多い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・計算カードを用いた練習を十分に行い、繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算に備える。
- ・数や計算について、解き方を十分に理解できるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読ませ、どんな場面なのかを確認しながら、「あわせて」や「のこりは」といったキーワードになる言葉に線を引かせる。具体的な場面が思い浮かぶよう、絵や図を活用したり、計算ブロックを操作したりしながら、たし算で解くか、ひき算で解くのかを考えさせるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学習問題には進んで取り組み、誤答を怖がらず、自分の意見をもって、進んで挙手できるようにする。
- ・友達に自分の考えを伝える習慣が身に付くようにする。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・数や計算に関して全員が十分に理解できるよう、スモールステップでの授業展開を行う。
- ・個別に支援が必要な児童には、ヒントを出したり、一緒に考えたりと個別指導をする。
- ・数の合成・分解（特に10まで）を念頭で正しくできるよう反復練習の時間を適時取る。
- ・「10までのたし算・ひき算」で、正しい答えが出せるまで繰り返し練習をしたり、数の合成・分解を意識させたりすることで、たし算やひき算の習熟を図る。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・たし算かひき算かを明確に捉えさせるために、図や計算ブロックを動かしながら立式をしたり、日常生活に結び付けて考えたりする活動を授業の中で多く取り入れる。
- ・問題文を図や半具体物に置き換えて考える習慣を身に付けさせる。また、問題文からどんな場面なのかを押さえ、分かっていることや聞かれていることの文に着目させ、そこから考えるよう指導する。
- ・実物投影機を使い、ノート指導を徹底する。見やすいノート作りをさせることで、自分の考えをまとめられるようにする。振り返りもノートに書かせ、自己評価の習慣を付けさせる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・発表の場面では、一人で説明する・ペアで説明する・全体の前で説明するといったように、説明の場面を多くし、自分の考えに自信をもてるようにする。
- ・「間違ってもいい。」という雰囲気作りをし、多くの児童が手を挙げて発言できるようにする。
- ・机間指導を充実させ、一人一人の意欲を引き出す。

2年生 〈算数科〉

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・学習内容の理解に大きな差が見られる。
- ・計算方法については、おおよその児童が理解できている。
- ・「時刻と時間」における知識、理解度が十分でない。
- ・点と点を結ぶ直線を引く時に、まっすぐで正しい長さの直線を引けない児童がいる。
- ・ものさしを使った長さの読み取りに時間がかかる。
- ・ $1\text{ cm}=10\text{ mm}$ 、 $1\text{ L}=1000\text{ mL}$ 等の単位の換算についての理解が不十分な児童がいる。
- ・長さやかさの量感が捉えられない児童が多い。

〈思考力、判断力、表現力〉

- ・問題文を正しく読んで立式することや、問題文を作ることが苦手な児童が多い。
- ・目先の情報ばかりに注目し、全体を捉えられていない。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・教科書やワークテストの発展的な問題にも積極的に取り組む児童が多い。
- ・文章問題を読まずに諦めてしまう児童がいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・学習以外でも時刻と時間の学習の理解を深めること。
- ・単位換算の理解を深めること。
- ・ mm などの細かい長さを測ったり表現したりする技能の向上。
- ・量感の育成。

〈思考力、判断力、表現力〉

- ・文章問題の内容を正しく読み取れるようにすること。
- ・文章問題の内容から、立式できるようにすること。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・多くの児童が関心をもって学習に取り組めるように、活動内容を充実させること。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・「時刻や時間」については、知識を定着させるために、日常生活の中で、「あと何分？」などと児童が時間について思考できる場面を意図的に組み込んでいく。教室の時計を手がかりにする。
- ・長さや水のかさなどの量的な単位については、生活科など他の教科でも意図的に単位量（ $1\text{ cm}\cdot 1\text{ mm}\cdot 1\text{ dL}\cdot 1\text{ L}$ ）がどの程度なのか、身近なものを使って確認する。また、測定の活動を重視し、量感を養いながら理解を深められるようにする。
- ・朝のスキルアップや授業において、計算の反復練習や長さを測ったり直線をかいたりする時間を確保し、計算力と技能を高めるようにする。

〈思考力、判断力、表現力〉

- ・たし算やひき算の場面をよりイメージできるよう、ICT等を活用して、問題場面を視覚的に理解させる。
- ・図や言葉を用いて、自分の考えをかいたり説明したりする機会を多く設定する。
- ・文章問題では、増える、減る、比べるなどの違いを感じ取らせ、「なくなると」「どちらがどれだけ」などのキーワードに着目させる。イメージを十分に膨らませて考え、立式できるような支援をする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・児童が「分かる」「楽しい」と感じられる授業を展開していく。個別最適な学習が展開できるように、ICTを活用して問題を提示する等、導入を工夫する。

3年生 <算数科>

現在の分析

<知識及び技能>

- ・長さの単位換算や、2学年で学習した図形の名称等については、学習を終えて間が空くと忘れてしまい、定着していない。
- ・「時刻と時間」については、「時間」の求め方が身に付いていない児童がいる。
- ・除法の計算については、おおむね定着している。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・四則計算を得意とする一方で、計算の概念を理解していなかったり、計算間違いをしたりする児童も多い。
- ・「答えが合っていれば正解」という意識が強く、式の意味を理解しきれていない。
- ・自分の考えを図や文で表すことに苦手意識をもっている。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・少人数のクラス編成の方が、作業や理解の速さの差がなく、発言や質問に対してより積極的になる傾向が見られる。

重点課題

<知識及び理解>

- ・10000までの数・小数・分数のしくみや2位数×2位数、あまりのある除法、重さや長い長さの単位、三角形の定義や弁別など、基礎的事項の定着。
- ・定規やコンパスの使い方を身に付けて正確に図形を描く。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・自分の考えを式や図で表し説明する。
- ・様々な考えを比較し、よりよい考えを価値付けする。
- ・題意をつかみ、「分かっていること」「求めること」を整理したり、図に表したりする。
- ・計算を工夫したり、検算をしたりして正確に計算する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・前回の学習との違いを明確に捉え、既習事項を生かして問題解決を行う。

授業改善策

<知識及び理解>

- ・授業や朝のスキルアップタイムの時間において反復練習をする時間を保障し、計算ドリルを活用して家庭学習を習慣付ける。
- ・朝のスキルアップタイム・家庭学習のドリル・単元ごとのテスト・テスト直し・学期末のまとめテスト等、基本的な事項については繰り返し確認し、定着を図る。
- ・補習教室を通して、基礎的な学力の定着を図る。
- ・「ドリルパーク」や「タブレットドリル」を活用して、問題に触れる時間を増やす。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・多様な考えをもち、対話的な活動によってよりよい考えを求めていくような授業の展開を工夫する。
- ・ICTを活用し、ノートを書画カメラで投影したり、様々な考えの一覧を映し出したりして、互いの考えを共有し比較しながら考えられるようにする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・児童が主体的に取り組めるような単元計画を工夫する。
- ・必然的に思考力・判断力・表現力等に児童の意識が向くように課題やめあての中に「考え方を伝える」等の言葉を加える。
- ・既習事項や算数の用語を教室掲示し、いつでも振り返ることができるようにしておく。

4年生 〈算数科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・設問全体の校内平均正答率は79.1%であり、目標値70.8%を8.3ポイント上回り十分到達した。また、全国正答率72.1%よりも7ポイント上回る結果となった。
- ・一方で、「かけ算の筆算に出てくる数の意味」「1と同じ大きさの分子」「円の半径」などで誤答が多く、特定領域の理解が十分ではない児童がいる。
- ・計算問題の正答率が約80%に達するが、文章から問題場면을想起し立式する問題の正答率が54.7%と低い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・かけ算の筆算の意味を正しく理解する。
- ・分数のしくみを理解し、数直線上に示された分数を読み取る。また、単位分数のいくつ分が1となるかを正しく解答する。
- ・円の半径を表す直線を正しく選択する。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・正しくないと言える理由を、言葉や数を使って説明する際に、知識・技能を用いて考えたり、自分の考えを表現したりする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・問題数の多さや文字の多さに抵抗を感じることなく、粘り強く取り組もうとする。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・数量の処理や計算の力を高め、技能を確実に身に付けられるように、繰り返し問題に取り組む。
- ・定規・分度器・コンパス等の学習用具を正しく使えるよう、さらに習熟させる。
- ・長さ・重さ・面積などの量感を養い、適切な単位を使えるようにする。
- ・知識・技能の定着に個人差があるので、習熟度別選択コースごとに、児童の実態に相応しい指導法を考える。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を正しく読み取り、立式できるよう、図を適切に活用し、筋道を立てて考えられるようにする。
- ・ノートに書いた自分の考えを、友達と交流し、共有する時間をもつ。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・身近な問題に置き換えるなど、課題提示を工夫することにより、問題解決への意欲を高める。
- ・学習のめあてに対する理解度を児童自身が把握できるよう、判断基準を示す。
- ・再度同じ課題に取り組んだり、より多くの問題に取り組んだり、チャレンジ問題に取り組んだりするなど、自分の課題を的確に把握し、学びを調整しながら粘り強く取り組めるようにする。

5年生 〈算数科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・正答率は領域別、観点別ともに、ほぼすべて目標値を上回っている。
- ・四則演算は比較的よくできるが、図形の問題や、思考を問われる問題の正答率は低い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・基本的な四則演算ができるようにする。
- ・図形の角や性質を理解させる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・言葉、数、図、式、数直線などを使って、自分の考えをまとめ、適切に表現できるようにする。
- ・帯分数、仮分数、真分数、整数の大小を並べて比較できるようにする。
- ・小数のわり算の筆算で、商や余りの大きさを考え正しく求められるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・問題文や資料、数値を正確に読み取り、いろいろな考え方で課題を解決しようとする。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・用語、単位や公式などを、図を使ったり具体物を操作したりする活動を通して理解させるとともに、丁寧に振り返りを行うことで理解の定着を図る。
- ・学習した内容を教室に掲示し、基礎基本の定着を確実にする。
- ・デジタル教科書を活用し、理解しやすい説明をする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・数式、図、数直線を用いて考え、友達の考えから考えを広げられるようにする。
- ・ノート書き方を指導して、考えを分かりやすく整理してまとめる時間を確保する。
- ・朝のスキルアップタイムや家庭学習で、小数や分数の計算練習の時間を確保し、反復練習をする。
- ・小数のわり算の計算が苦手な児童には、答えの見当を付けさせ、筆算を丁寧に書いて計算を進めるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・デジタル教科書を活用し、図形等についての理解を深める。
- ・日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学習課題を明確にして、学ぶ意欲を高める。
- ・朝のスキルアップタイムに基礎的な計算練習を行い、基礎計算力を高める。
- ・様々な考えを取り上げ、互いの考えから学ぶ場を設ける。友達の説明や考えを聞き、自分の考えと比較することで、深い学びにつなげられるようにする。

6年生 〈算数科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・正答率は領域別、観点別ともに全て目標値を上回っている。
- ・達成率（領域別、観点別経年比較）においても平均正答率が全て目標値を上回っている。
- ・領域別に分析する区分においても、正答率は全て目標値を上回っている。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・「分数と小数」について、分数と小数のしくみを理解する。
- ・「円グラフや帯グラフ」について、グラフのかき方や読み取り方を理解する。
- ・「平均」について、平均値の求め方や応用の仕方を理解する。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・言葉、数、図、式、数直線などを使って適切に表現したり、交流して考えを広げたりする。
- ・立体の体積を正確に求め、式の意味を説明する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・問題文や資料から、分かっていることや問われていることを正確に読み取る。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・朝のスキルアップタイムに基礎的な計算練習を行い、基礎計算力を伸ばす。
- ・算数少人数クラスでのそれぞれのレベルに合った発問や問題の選定を行う。
- ・朝のスキルアップタイムや家庭学習で、小数や分数の計算練習の時間を確保し、反復練習をする。

〈思考力、判断力、表現力〉

- ・「500 円の 20%引きの商品の値段は…」 「ケチャップとウスターソースを 3 : 2 で混ぜると…」 など生活の中でも、数量や単位について意識させ、量感を育てていく。
- ・課題解決にあたり、様々な考えを全体で取り上げ、互いの考えから学ぶ場を設定する。友達の考えを聞き、自分の考えと比較して共通点を見出したり、相違点について考えたりしながら、理解を深めていく。
- ・ノートの書き方を指導して、考えを分かりやすく整理してまとめ、振り返る時間を確保する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・デジタル教科書を活用し、学習課題を把握しやすくする。
- ・日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学ぶ意欲を高める。